

KISETSU



企業のためのよろず情報誌



主な話題

- ・特集 2023年度公共工事労務単価
- ・札幌市 2023年度予算案概要
- ・藻岩高と啓北商高の再編で基本設計

札幌市中央区南2条西3丁目の市街地再開発事業として今夏開業予定の再開発ビル「moyuk SAPPORO(モユクサッポロ)」。商業フロアには「ロフト」と「ソニーストア」が入る見通しで、開業が決まっている都市型水族館「AOAO SAPPORO(アオアオサッポロ)」とともににぎわいの創出が期待されています。

主要12職種では4・5%上昇 2011年度から2倍近くの伸びに

国土交通省と農林水産省は、

2023年度公共工事設計労務単価を2月14日に発表しました。道内の伸び率（単純平均）は、44職種平均で22年度を5・3%上回り、普通作業員など主要12職種では4・5%上昇しています。いずれも12年連続で前年度比プラスとなり、12職種では、2万1,000円台にまで上昇しました。最低水準だった11年度の2倍近くにまで伸びています。普通作業員や交通誘導員など人手不足が顕著な職種の伸びが高くなっています。

予定価格の積算に使用する単価は、技能労働者の所定労働時間8時

間当たりの基本給相当額、基準内手

北海道の2023年度公共工事設計労務単価職種別一覧

(金額・単位円、黄色は主要12職種)

職種	2022年度	2023年度	23/22上昇額	23/22伸び率
1 特殊作業員	22,100	22,800	700	103.2%
2 普通作業員	18,000	19,100	1,100	106.1%
3 軽作業員	15,500	16,300	800	105.2%
4 造園工	20,500	21,000	500	102.4%
5 法面工	28,300	28,600	300	101.1%
6 とび工	25,100	26,100	1,000	104.0%
7 電工	22,600	24,300	1,700	107.5%
8 鉄筋工	25,800	26,300	500	101.9%
9 鉄骨工	26,700	27,700	1,000	103.7%
10 塗装工	25,800	26,100	300	101.2%
11 溶接工	27,400	28,500	1,100	104.0%
12 運転手(特殊)	22,400	23,400	1,000	104.5%
13 運転手(一般)	18,600	19,200	600	103.2%
14 潜かん工	37,000	37,400	400	101.1%
15 潜かん世話役	44,000	46,400	2,400	105.5%
16 トンネル特殊工	38,300	40,700	2,400	106.3%
17 トンネル作業員	27,900	28,900	1,000	103.6%
18 トンネル世話役	37,800	40,100	2,300	106.1%
19 橋梁特殊工	31,700	32,100	400	101.3%
20 橋梁塗装工	33,200	34,500	1,300	103.9%
21 橋梁世話役	39,800	42,100	2,300	105.8%
22 土木一般世話役	24,200	25,200	1,000	104.1%
23 高級船員	28,600	29,300	700	102.4%
24 普通船員	22,600	23,100	500	102.2%
25 潜水士	42,300	44,300	2,000	104.7%
26 潜水連絡員	28,800	30,600	1,800	106.3%
27 潜水送気員	26,800	28,400	1,600	106.0%
28 山林砂防工	-	35,100	-	-
29 軌道工	-	31,200	-	-
30 型枠工	24,700	25,200	500	102.0%
31 大工	25,700	27,300	1,600	106.2%
32 左官	25,100	26,700	1,600	106.4%
33 配管工	22,000	23,200	1,200	105.5%
34 はつり工	25,300	26,700	1,400	105.5%
35 防水工	27,200	28,900	1,700	106.3%
36 板金工	25,400	26,700	1,300	105.1%
37 サッシ工	25,800	26,100	300	101.2%
38 内装工	25,100	26,300	1,200	104.8%
39 ガラス工	22,100	22,900	800	103.6%
40 ダクト工	21,400	21,900	500	102.3%
41 保温工	24,200	26,000	1,800	107.4%
42 設備機械工	23,600	25,300	1,700	107.2%
43 交通誘導員A	15,200	16,200	1,000	106.6%
44 交通誘導員B	12,600	13,400	800	106.3%
平均額	26,362	27,764	1,402	105.3%

当、所定労働日数1日当たりの臨時給与などで構成されます。2013年度からは、法定福利費相当額の加算措置を行い、その後、義務化分の有給休暇取得に要する費用を加算。22年度は時間外労働時間を短縮するために必要な費用を新たに反映し、23年度は元請けから技能者に対して

直接支給している食事代などの手当も反映するようになりました。調査対象は全国で9,932件(有効標本数8万4,069人)、このうち北海道は949件(同8,397人)と、全体の約1割を占めています。道内は全44職種平均2万7,764円で、前年度に比べ

5.3%、1,402円上昇しました。今回から山林砂防工と軌道工が追加されています。

12職種平均は4.5%増の2万1,833円

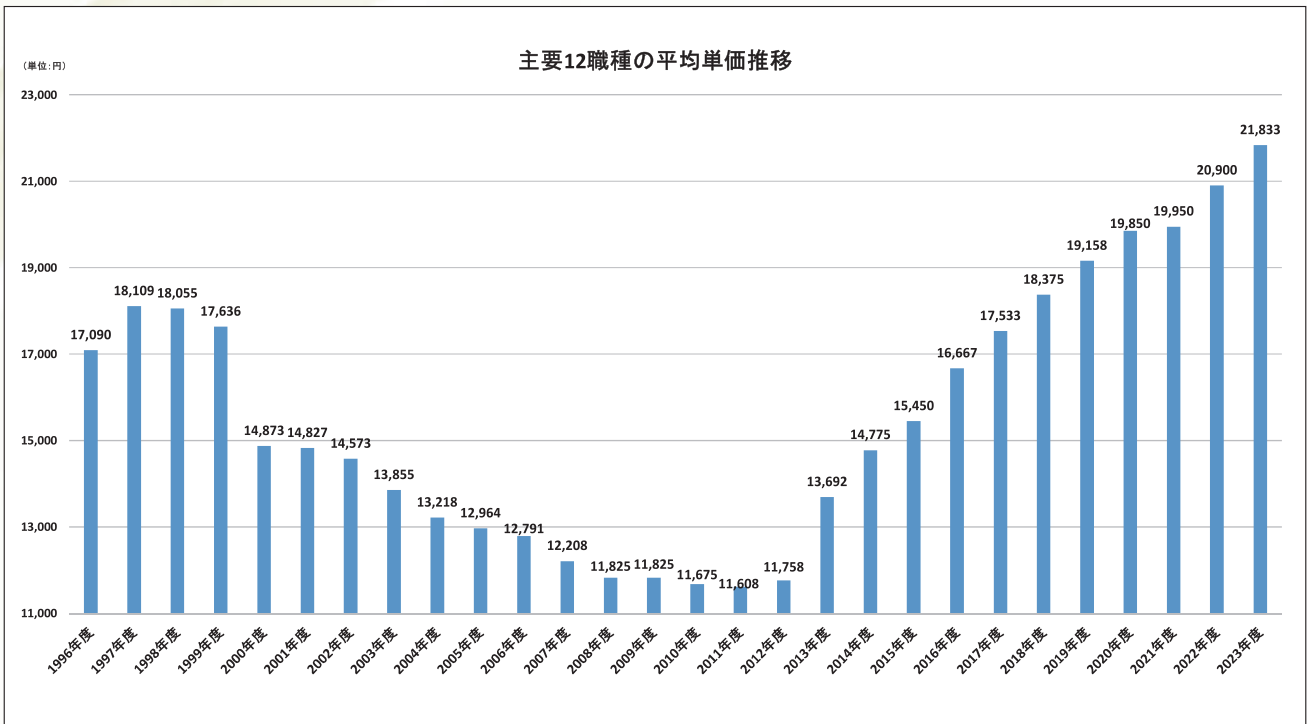
作業員や運転手など労働者数が多い主要12工種の単価平均は2万1,833円で4.5%、933円の増を確保しました。2022年度には、単価が公表となった1996年度以降、初めて2万円台に達しましたが、23年度はさらに伸びが続き、最低水準まで落ち込んだ11年度の1万1,608円から2倍近くまで回復しています。

12職種で高い伸びを示しているのは交通誘導員(A)です。2022年度比6.6%、1,000円増の1万6,200円になりました。同職種は12年度に7,900円まで下降しましたが、その後は一貫して上昇を続けています。このほか大工と

左官も6%台の伸びを確保し、1,600円の伸びです。人手不足が深刻な普通作業員も6.1%、1,100円上昇しています。

全国の全職種の平均単価(加重平均)は、2022年度比5.2%増の2万2,227円に引き上げられました。12職種では5%増の2万822円です。北海道の単価と比べると軽作業員、大工、左官、交通誘導員Aで全国を上回る単価となっている一方、普通作業員や運転手、型枠工などは1,000円以上全国平均を下回り、差額も拡大しています。

主要12職種の平均単価推移



開発局、道、札幌市は3月1日から適用

北海道開発局は、単価改正に伴う措置について、2022年度と同様に3月1日以降に公告する工事と、すでに公告済みで、3月1日以降に入札書を提出する工事は新単価を適用しています。これら以外はすべて旧単価で手続きを進め、2月28日以前に公告し、3月1日以降に契約する工事については、契約締結後、特例措置として単価入替契約変更で対応します。また、2月28日以前に契約し、3月2日以降に着手する工事は、インフラスライド条項の適用を予定しています。その際は受注者に増額1%分の負担が生じるようになります。北海道や札幌市も同様に3月1日から新単価を導入します。

宮城県や東京都との単価差は拡大

大も

主要12職種の都府県と北海道の単価を比較すると、平均額が最も高かったのは2022年度に続いて宮城県。平均額は2万6,625円と4%増加しています。22年度に比べ伸び率はやや鈍化したものの、単価差は4,792円に拡大しました。東京都は6.3%増の2万4,533円となり、差額は22年度の2,175円から2,700円に広がっています。

職種別では、型枠工が北海道の2万5,200円に対して、宮城県は3万6,700円と、差額は1万1,500円です。とび工は、北海道で1,000円の上昇に対して、宮城県、福島県、東京都は3,000円の上昇となり、東京都では2万9,900円にまで上昇し、北海道とは3,800円の差と

なりました。また、東京都では運転手の価格が大きく上昇し、北海道との単価差が広がっています。

今回の設計労務単価について、2月14日に記者会見した斉藤鉄夫国

交相は「建設業

4団体との意見

交換会で官民一

体となって賃上

げに向けた機運

醸成を進めてき

たことや、安定

的な公共事業予

算の確保、適正

価格での公共工

事の発注とダン

ピング対策など

の取組が、建設

業界における賃

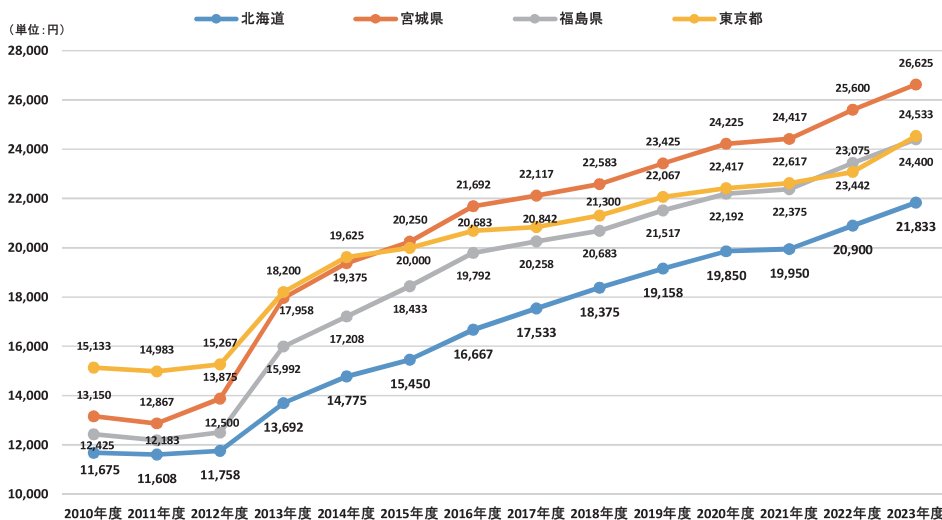
上げに結び付い

たことによる成

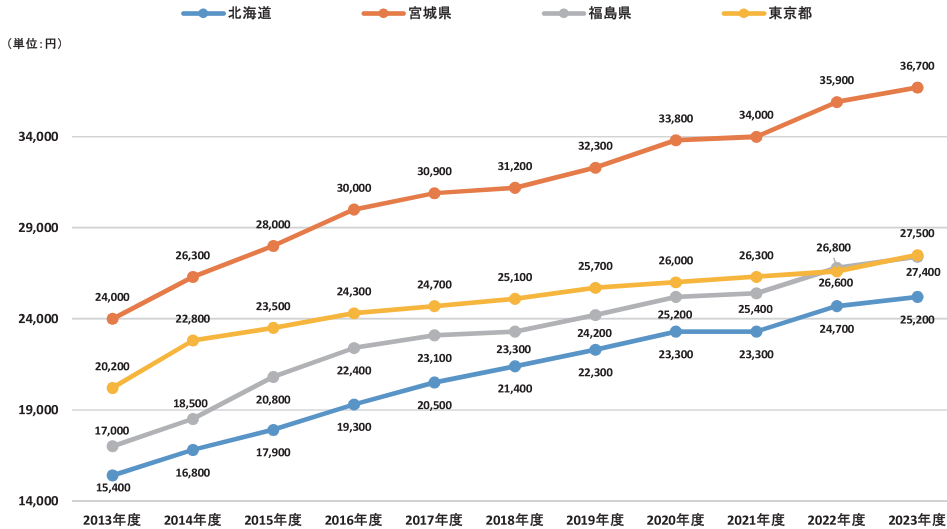
果となった」と

の認識を示しま

2010年度年度以降の12職種平均単価推移



2013年度以降の型枠工平均単価推移



した。また「今後この流れが地方公共団体発注の工事や民間の工事の賃金上昇につながっていくために業界団体と協力しながら進めていきたい」と語っています。また、北海道

建設業協会では「担い手不足を抱える中、単価の上昇を歓迎する。実支払賃金上昇の好循環となるよう、業界としても頑張りたい」と受け止めています。

**さつぽろ季節労働者通年雇用促進支援協議
会主催の合同企業説明会
100人以上が参加、札幌市内企業とマッチング**

さつぽろ季節労働者通年雇用促進支援協議会は2023年2月2日、サッポロファクトリーホール（札幌市中央区）にて合同企業説明会を開催いたしました。建設業など31社が出展し、来場した100人以上の求職者に業務内容や自社の強みなどを説明したほか、同日開催のセミナーでは、コミュニケーションを円滑にするための方法や話し方のポイントをアドバイスするなど、就職活動に役立つ情報を提供しました。

この説明会は、厚生労働省から委託を受ける通年雇用促進支援事業として毎年開催しているもので、通年雇用で働ける企業と札幌市内在住の求職者とのマッチングを促進しています。

今回は「安定就職のための『お仕事探しフェアinさつぽろ』と題し、建設、警備、製造、IT、サービス

ス、運輸など多様な業種の企業31社がブースを構え、就労条件や待遇などを明示した上で、自社の特徴や魅力をアピールし、求職者の疑問には各企業の担当者が答えていました。

会場内では、プロのカメラマンによる履歴書用写真の無料撮影サービスに長蛇の列ができたほか、専門職による就労カウンセリングも行い、来場者の働き方の悩みをフォローし



座りきれない出展ブースもあった説明会



さまざまな業種が参加した出展ブースの様子

冒頭に開かれたセミナーでは、ビジネスマナー講師の青山夕香氏が「コミュニケーションに自信がなくても大丈夫」と題して、職場での人間関係を円滑にする「嫌われない受け答え」の方法や「教えてもらう場合のお願いの仕方」などを具体的に説明したほか、「ら抜き言葉」など間違いがちな言葉遣いなどを分かりやすく解説しました。

2023年1月チャレンジ

支援センターが講演会を開催

通年雇用促進事業の一環として同

協議会が開設する「建設業チャレンジ支援センター」は2023年1月26日、札幌市内で「経営基盤を強化するための講演会」を開催、リモート受講を含め建設業の経営者ら約120人が、「若者を採用・定着させるためのポイント」などを学びました。

特定社会保険労務士の遠藤起予子氏は「若者は安心して、やりがいを感じて働ける職場を求めています。そういう職場の風土を作るのは社長の仕事です」と述べ、手始めに社内の雰囲気や伝わるホームページの作成を提案していました。



若者を採用している企業の実例などを学んだ

札幌市2023年度予算概要 骨格予算ながら一般会計前年度当初比2.6%増で過去最大

札幌市は、総額1兆8,495億6,900万円に上る2023年度予算案を発表しました。一般会計は前年度当初比2.6%増の1兆1,922億円で、4月に市長選を控えた骨格編成ながら過去最大の規模です。物価高騰対策や感染症対策に加え、大雪にも速やかに対応できるよう除雪費を過去最高額で計上しています。建設事業費は、駒岡清掃工場更新や中央区複合庁舎整備などの継続で、近年にない二桁の伸び率を確保しました。

一般会計以外は、特別会計が7会計合わせ3,840億7,500万円、2.5%増、企業会計が6会計合わせ2,732億9,400万円、1.7%増となり、総額でも2.5%増となります。一般会計は、市長選後に肉付け補正予算を編成するための財源として30億円を留保していま

す。

除雪費には、21.3%増の262億円を措置しました。大雪を想定した道路除排雪費用を当初予算で確保することで、より機動的に対応します。

建設事業費は、一般会計分が27.8%増の1,335億円、特別・企業会計分が2.1%減の648億円、これらに2022年度補正予算の繰越し分169億円を合わせた2,152億円が執行額として見込まれ、前年度当初の1,827億円に

札幌市 2023 年度予算案総括表

(金額・単位百万円)

会計区分	予算額	前年度当初比
一般会計	1,192,200	102.6%
総務費	48,422	91.6%
保健福祉費	487,436	102.3%
環境費	38,307	153.1%
経済費	107,042	91.1%
土木費	119,364	108.7%
教育費	53,424	124.9%
特別会計	384,075	102.5%
土地区画整理	632	164.6%
駐車場	149	92.5%
企業会計	273,294	101.7%
病院	32,407	103.1%
中央卸売市場	4,536	109.9%
軌道整備	3,398	96.0%
高速電車	73,793	97.9%
水道	69,481	104.2%
下水道	89,679	102.3%
総 額	1,849,569	102.5%

※一般会計の内訳は主な費目のみ掲載

※特別会計は7会計のうち2会計のみ掲載

比17.8%増となります。繰越し分を含めた近年の建設事業費総額は、2019年度当初が1,623億円(前年度当初比1.5%減)、20年度が1,764億円(8.7%増)、21年度が1,784億円(1.1%増)、22年度が1,827億円(2.4%増)と推移し、23年度で4年連続の増額となります。主な建設事業としては、札幌駅周辺の再開発、新幹線札幌駅東

改札口関連の実施設計や創成川上空の歩行者動線の検討などに103億6,400万円を計上しました。学校施設の整備は、当初で69億8,700万円、補正で113億9,800万円の計183億8,500万円に上り、前年度より約67億円増えています。仮称定山溪地区義務教育学校新築の着工費などが盛り込まれています。

北海道と札幌市が建設産業ふれあい展を チ・力・ホで開催 仕事体験で建設業の役割と魅力伝える

北海道と札幌市は2023年1月7、8日の両日、札幌駅前通地下歩行空間で22年度「建設産業ふれあい展」を開き、子どもから大人まで楽しめる仕事体験やパネル展示、会場内にヒントがあるクイズラリーなどを通じて、道行く家族連れに建設業の役割や魅力をアピールしました。

インフラ整備や災害対応、除雪など地域の安全・安心を守る建設産業の役割を知って、より身近に感じてもらおうと毎年開催しているイベントです。今回が7回目ですが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になり、21年度は体験型の催しは行わなかったため、3年ぶりの仕事体験となりました。

主催した北海道と札幌市、協賛した北海道建設技術センターのほか、建設業界からは北海道建設業協会をはじめ、専門工事業、測量設計業の各団体が16ブースを構えました。

北海道建設業協会は、建設業の人材育成の取組や災害復旧で貢献する



体験の合間に建設業をPR

姿などを紹介するパネルを展示し、パンフレットなどを無料配布し、業界の役割をアピールしました。



鉄筋の結束を体験する子どもたち

札幌建設業協会は、建設現場のVR（仮想現実）やAR（拡張現実）のコーナーを企画し、工事現場の高所足場を歩く感覚を体験できるヘッドセットなどを用意したほか、3Dスキャナーなど最新のICT施工機器を展示しました。

北海道左官業組合連合会や日本建築大工技能士会札幌支部は体験型の

ブースを設け、子どもたちは左官の塗り壁や木製の小型椅子作りに、真剣な表情で挑戦していました。

北海道建設躯体工事業協同組合と北海道鉄筋業協同組合も足場の組み立て、鉄筋の切断と結束の体験コーナーを設置し、来場者に作業手順などを丁寧に伝えていました。

北海道造園緑化建設業協会はミニ盆栽の作製、北海道測量設計業協会は測量機器やドローンの操作体験が好評を博していました。



左官の塗り壁の技を優しく伝授

藻岩高と啓北商高の再編校舎の計画概要 2027年度開校へー4月から基本設計に着手

札幌市は、市立高校の藻岩高校と啓北商業高校を再編した新設高校を2027年春に開校する計画です。新校舎は南区川沿3条2丁目1の1の藻岩高校敷地内に整備する方針で、23年4月から基本設計に取り掛かり、24年度中に実施設計を終え、25年10月ごろの工事着手を想定しています。

市教育委員会は、2025〜28年度の4年間に中学校卒業者の大幅な減少が見込まれるため、各市立高校の規模を縮小するのではなく、既存校の特色を生かしながら「発展的再編」を目指す方針を掲げています。共に南区内に所在する藻岩高校と啓北商業高校の再編が、全日制市立高校再編の第1号となります。

2027年度の新設校開校時の設置課程は、1学年当たり普通科5学級、商業科3学級の単位制となり、募集定員は普通科200人、商業科120人の計320人を想定し、教職員数は85人程度を見込んでいます。新設校の設置場所となる藻岩高校の敷地面積は約5万1,600㎡です。

市が2023年1月にまとめた再編新設校新築の基本計画によると、新施設の規模は、校舎棟が延べ床面積9,857㎡、屋内運動場は延べ1,940㎡と見込んでいます。これとは別に雨天練習場を延べ1,125㎡で屋内運動場の階上または階下に設けるほか、部室棟延べ551㎡も新設する予定です。

校舎棟には、通常の教室に当たる講義室や特別教室のほか、アプリの開発やVR（仮想現実）やAR（拡張現実）などの最新映像技術を取り入れた教育に対応した中講義室なども設ける予定です。

1974年に完成した藻岩高校の現校舎は、新校舎完成後に解体予定ですが、既存屋内運動場は第2屋内運動場として利用する考えです。

屋外施設としては、野球場、サッカー場、陸上競技場のほか、テニスコート6面、アーチェリー場6面を確保する方針です。

概算事業費としては、校舎などの建設に約51億円、藻岩高校の解体に約9億円、グラウンド造成に約14億円を見込んでいます。

新校舎などの基本設計は2023年11月までに

取りまとめ、同12月から実施設計に取り掛かり、25年1月までに設計完了の予定です。工事は同年10月にも新校舎などに着手し、27年4月の開校後、グラウンド整備や現在の校舎棟の解体を予定しています。



藻岩高校の現校舎

札幌市と竹中工務店が土地交換 北5西5街区と大通東1街区 市は大通公園と連続するオープンスペースを構想

札幌市は、中央区北5条西5丁目街区にある市有地約3,000㎡と、竹中工務店（本社・大阪市）が所有する中央区大通東1丁目街区の一部約3,800㎡の土地を交換します。大通東1街区は再開発が検討されており、市が地権者として主体的に関わりながら、大通公園と連続化したオープンスペースを確保するなど、札幌創世1.1.1区（さんく）にふさわしい街区形成に取り組む考えです。

北5条西5丁目4の1ほかの市有地は、20年間の定期借地権を設定し、竹中工務店に貸し付け、同社が「sapporo55ビル」を2004年に建設しました。定期借地権の期限が24年4月までと迫り、同社と入居テナントから事業継続を求める要望

書が市に提出されています。

一方、大通東1丁目10の1ほかの竹中工務店所有地には、2010年に劇団四季が設置した旧北海道四季劇場があり、20年に劇団から施設の譲渡を受けた市が、敷地を賃借しています。

大通東1丁目街区は、創世スクエ



竹中工務店が取得するsapporo 55ビルの敷地

アが建設された北1条西1丁目街区、市役所本庁舎建て替え候補地となっている大通西1丁目街区と合わせた都心再開発計画「札幌創世1.1.1区」を構成しています。

同街区には、北海道電力の本社、北海道中央バスのターミナルがあり、竹中工務店を含む地権者3社で2017年に再開発協議会を設立したものの、事業化のめどは立っていません。

こうした状況を踏まえて市は、竹中工務店と土地交換をすることで、大通東1丁目街区では地権者として主体的に再開発に関与できるようになり、北5条西5丁目街区は同社の知見を生かした有効な土地利用が見込めると判断しました。

北5条西5丁目にある公共立体駐車場の敷地は、交換後も引き続き市が保有して、都市計画で定める駐輪場機能は恒久的に維持します。

北5条西5丁目の土地評価額が11.4億円に対し、大通東1丁目



旧北海道四季劇場がある大通東1丁目街区

の土地評価額は78億8,000万円となつているため、差額の35億2,000万円を竹中工務店が市に支払い、市はまちづくり推進基金に積み立てます。

市は、大通方面からの人の流れを創成川通以東に波及させるため、大通東1丁目街区の再開発では、大通公園の延長線上に憩いの空間となるパブリックスペースを創出する方針で、他の地権者と具体的な検討を進める考えです。

補正含めた「16カ月予算」ベースで 1%増の9,293億円 23年度北海道開発事業費 北海道や札幌市など補助分が大きく伸びる

2023年度北海道開発事業費は、北海道や市町村などに地元負担を加えた事業費ベースで22年度比0.2%増の7,048億円と、2年連続の増額となりました。22年度補正予算を加えた「16カ月予算」で見ると、総額は9,293億円。22年度比で約90億円、1%増加しています。北海道開発局などが所管する直轄と北海道や札幌市など地方自治体が事業主体となる補助別では、直轄は1.9%減の4,809億円、補助は4.4%増の4,423億円となり、直轄と補助のシェアは、補助が48%に上昇しています。事業別では、廃棄物処理と水道が大きく伸びています。

2022年度補正予算を加えた「16カ月予算」では、補正が3.5%増加し、当初も微増を確保した結果、総額では1%増となっています。

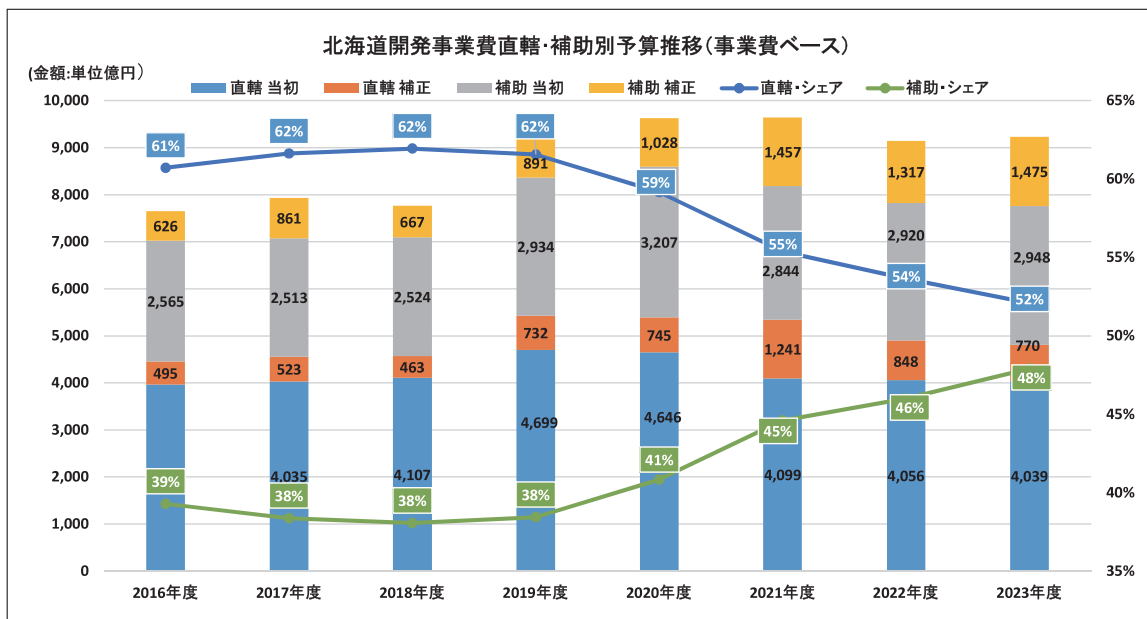
当初予算の空港には、直轄・補助に分類できない「北海道空港整備事業資金貸付金」として約60億円、港湾にも「埠頭整備等貸付金」が3,000万円計上されているほか、1昨年新設したデジタル庁への一括計上額は除いています。

16カ月予算ベースで各事業を見ると、道路は道路環境整備を含め3,063億円。当初・補正ともに増額を確保し、1.8%の伸びとなりました。交通安全対策や電線類地中化が中心となる道路環境整備が6%の伸びを見せています。治水は都市水環境を含め4.1%増の1,365億円に上り、補助は5割近くの増加となりました。

港湾は水産基盤整備を含め1.9%増の691億円。補助の水産基盤整備が10%増の288億円を確保しています。農業農村整備は直轄と

補助で1,598億円の予算規模になり、直轄は806億円、補助は792億円で、ともに微減しています。北海道や市町村が事業主体となる交付金は、防災・安全交付金で補助事業へのシフトなどにより、約10%減少しています。また、ごみ処分場や焼却炉を整備する廃棄物処理は倍増の288億円、水道も2割増の98億円に上っています。

直轄と補助のシェアを見ると、直轄が4,809億円で総額の52%を占めています。22年度に比べシェアは2割低下し、補助は4,423億円と48%のシェアとなっています。直轄は16-19年度までは6割を確保していましたが、住宅都市環境整備や公園水道廃棄物処理など、補助が中心の生活関連事業の伸びを



受け、補助のシェアの上昇傾向が続いています。

橋梁修繕・点検の最新技術を学ぶ —北海道技術者育成プラットフォームのシンポジウム 240人が参加—

北海道技術者育成プラットフォーム（会長・三上隆北大名誉教授）は2023年2月1日、TKP札幌駅カンファレンスセンターで22年度シンポジウムを開催しました。室蘭工科大学院工学研究科の岸徳光特任教授が、橋梁の維持管理技術と補修補強法に関する現状と今後の展望などについて講義。岸特任教授は「劣化の進行を抑制することを目的に補修のみを行うことも必要ではないか」と指摘しました。

同プラットフォームは、建設業就業者の高齢化と若手技術者不足が進む中、激甚化する災害への対応やインフラマネジメントを担う技術者育成を目的に、北海道開発局と北海道、寒地土木研究所、北海道建設業協会

などが2019年3月に設立しました。22年12月末現在で79人、46団体が会員となっています。



橋梁修繕・点検の最新技術を学んだシンポジウム

シンポジウムにはオンラインも含めて約240人が参加。講演では岸

特任教授が、道内橋梁の維持管理に係る今後の課題として、限られた財政の下で多くの橋梁の長寿命化を進めるために簡易で効率的な手法と、

点検業務における技術者や技術力維持に向けた教育の充実、自動評価法

の確立などを上げました。

その上で、鋼橋の腐食に対する簡易な補修技術として「アラミド繊維シート接着工法」の施工例や、橋梁振動による健全度評価として「サーボ型加速度計」を使った健全度評価の実施事例を紹介。また、積雪寒冷地域での橋梁点検支援技術として「アーム型

点検ロボット」「ロボットカメラ」「二輪型マルチコプタ」「小型ドローン」の4つの技術の実証試験概要を解説。「現時点では総合的に小型ドローンが最も優れている」と説明しました。

総括として「設計耐用年限を超えた橋梁は年々増加しているが、鋼材の部分腐食等の比較的小さな損傷も多い」と指摘した上で「すべてを設計基準に基づいて補修・補強を実施することは財政的に不可能。結果的に対応が遅れ、損傷が進行するため、損傷が小規模の場合には、劣化の進行を抑制することを目的に補修のみを行うことも必要ではないか」と提案しました。災害発生後の橋梁点検では「被災規模の把握、安全性、復旧の観点から早期の実施が不可欠。点検技術の高度化も必須であり、点検技術の高度化を日頃から積極的導入し活用すべき」と述べました。

糠平ダムなど3ダムの再生を検討 十勝川水系河川整備計画変更流域委員会に提示

十勝川流域委員会（委員長・泉典洋 北大大学院工学研究院土木工学部 門教授）は2023年1月11日、帯広第2地方合同庁舎で第14回目の委員会を開催し、十勝川水系河川整備計画の変更を審議しました。十勝川の治水対策として、帯広開建が既存ダムの活用と河道掘削案を提示し了承されました。既存ダム活用では、音更川流域の糠平ダムなど3ダムの再生事業に着手する方針を示しました。今後、施設管理者の電源開発と洪水調節機能の確保や治水・利水の貯水容量見直しの協議などを進め、次回の委員会でダムかさ上げに関する計画段階評価の原案を提示する予定です。

この日の委員会では、同開建が十

勝川中流市街地への治水効果の観点から、上流部にある13ダムを再生候補とし、4つの流域で音更町の十勝川温泉付近における流量低減効果を検証しました。

その結果、音更川流域にある糠平、幌加、元小屋の3ダムの再生による流量削減が毎秒700m³と、他の流域に比べ7倍の効果があることが確認され、河道掘削の規模縮小、動植物への影響低減などの効果もあることから、この3ダムを候補とし、委員会も了承しました。



道内では有数の貯水量を誇る糠平ダム

3ダムは1950年から60年代にかけて電源開発が発注・完成したものです。最大規模の糠平ダムは、56年に大林組が施工し竣工した重力式コンクリートダム。堤高76m、堤頂長293m、堤体積46万m³、有効貯水量1億6,050万m³と、有効貯

水量では夕張シューパロダム、雨竜第一ダムに次いで道内3番目の能力を持ちます。21年度土木学会選奨土木遺産にも選定されています。

委員会では、ダム再生に関する委員からの質問に対して、帯広開建が、糠平ダムが規模や能力の面で治水効果が最も高いと、かさ上げの有力候補であることを説明した上で「今回は3ダムを『群』として評価。発電への影響なども想定し、施設管理者と協議・連携を進め、必要な対策を考えていきたい」と話しました。

事業化に向けては、知事の意見聴取などを経て、新規事業化に向けての計画段階評価などの作業が進むこととなります。この過程でかさ上げ規模が決定しますが、同ダムは貯水・発電機能に優れ、電力供給で大きな役割を担っていることから、発電用の貯水量をどの程度洪水調整機能に振り分けるかが焦点の一つとなります。

グランプリは旭川設計測量の平林海さん
 北測協フォトコンテスト2022、
 働く楽しさをいきいきと表現

測量設計業界で働く人の姿をいきいきとー。北海道測量設計業協会（渡辺亮会長）は「フォトコンテスト2022」の受賞作品を決定しました。グランプリには、旭川設計測量（本社・旭川市）の平林海さんが撮影した「社訓：仲良く働け笑って暮らせ」が選ばれました。現場で働く若者を撮影した作品で「2人の笑顔が測量業界で働くことの楽しさを表している」と高い評価を受けました。

当協会によるコンテストは今回で3回目。「働く人」をフォーカスし、会員各社から募集しています。今回のコンテストには、昨年を大きく上回る14社、130作品の応募があり、2023年1月18、19日の西口二審査会を開催し、奨励賞を含め受賞作品41点を決定しました。

グランプリとなった平林海さんの作品は、富良野川改修工事ツカクシ富良野川地区地形調査の現場で撮影。同社の社訓を若者2人の笑顔で表現しました。また、金賞には高橋翔さん（アサヒ建設コンサルタント）の「ロープ調査のプロフェッショナルたち」、木村学さん（同）の「自然の驚異 防災点検」、佐々木隆宏さん（富士建設コンサル）の「来客前の遠隔点検」の3点が選ばれました。

会長賞は小嶋泰弘さん（イズム・グリーン）の「マイナスイオン大量発生中」、特別賞は沼田耕司さん（旭川設計測量）の「思えば遠くに来たもんだ」が受賞しました。



👑 グランプリ：平林海さん（旭川設計測量）



★ 金賞：高橋翔さん（アサヒ建設コンサルタント）



★ 金賞：木村学さん（アサヒ建設コンサルタント）



★ 金賞：佐々木隆宏さん（富士建設コンサル）



さっぽろニユース・ア・ラ・カルト

- ・中島公園旧ヤマハ跡地にホテルなどの複合ビル着工
- ・北海道経営未来塾の経営実務講座
- ・中央区に「千歳鶴」の酒蔵が完成

まちと人が躍動する札幌圏。この地域ではさまざまな出来事と話題が提供され、それが人々の関心を集め、それがまち全体の活気を呼び起こしています。「さっぽろ ニュース・ア・ラ・カルト」では、そんな「旬な」話題をご紹介します。

札幌・中島公園旧ヤマハ跡地 アクサグループがホテル・オ フィス複合ビル着工

世界的に保険・資産運用を手掛けるアクサグループ（フランス）が、2023年3月頃から札幌・中島公園近くで仮称「AXA札幌PJ」に着工します。高級ホテルやオフィス、店舗の複合ビルで、2025年5月ごろの竣工を予定しています。



旧ヤマハ札幌ビル跡地で着工する仮称「AXA札幌PJ」

建設場所は、旧ヤマハ札幌ビルがあった札幌市中央区南10条西1丁目跡地を中心とした一帯。旧ヤマハ札幌ビルは、札幌パークホテルがボウリング場として建設したもので、ヤマハ（静岡県）が土地建物を取得。同

社は、ピアノ、弦楽器など音楽関連の専門ビル「ヤマハミュージック」として約40年間にわたって営業を続けていました。

「ヤマハミュージック」は、2015年の移転に伴い解体され、21年にアクサ系のALJ Sapporo RENE2特定目的会社（東京都）が土地を取得していました。3月から建設が始まる仮称「AXA札幌PJ」の規模は、S造、14階、延べ約5万2、673㎡。設計・施工は竹中工務店が担当しています。

近隣の「麒麟ビル園本館中島公園店」跡地では、積水ハウス（大阪市）が、地上13階建てのホテル建設を進めています。今回、旧ヤマハ跡地での複合ビル建設が開始されることから、延期になっていたサンケイビル（東京本社・東京都千代田区）と札幌市による新MICE施設整備事業（札幌パークホテル建て替え事業）が動き出す可能性も出てきました。

「北海道で1兆円ファンドを」 北海道経営未来塾で猪又将 ファイバーゲート社長が講演

北海道の若手経営者を官民で育成する「北海道経営未来塾」(塾長・長内順一 未来経営研究所社長)は2023年2月8日、北洋大通センター4階セミナーホールで、経営実務講座を開催しました。商業施設や店舗向けの「フリーワイファイサービス」などを提供するファイバー



講演するファイバーゲートの猪又将哲社長

ゲート（札幌市）の猪又將哲社長が「起業〜上場で得た経験則とここだけの話」をテーマに講演しました。

この講座は北洋銀行（本店・札幌市）が主催したもので、塾生ら約30人が出席しました。猪又社長は、札幌に上場していることを踏まえて「北海道は一次産業の宝庫であることから、商品先物を札幌で取り組むのが良いのではないか」と提案しました。その上で、「一次産業が更に発展する地域は、北海道以外にはないと思う。商品先物をデジタル取引にすれば、一次産業で働く人たちの収入も飛躍的に上がり、一次産業の価値は飛躍的に高まるのではないか。札幌にこそ一番のポテンシャルがある」と話しました。

また、北海道で1兆円ファンドをつくるアイデアも紹介。「道内で1,000億円を集めてレバレッジ（少額の投資で大きなリターンを得ること）を利かせれば1兆円ファンドができるだろう。その資金を使って送電網の整備や、蓄電池技術の知見を

高めて、全国唯一の電気代格安エリアにすれば良い。電力を大量に使うのは、データセンターや製造工場。北海道を本社とする別会社を条件に誘致すれば、法人税・道市民税なども入ってくる。そういう大胆な大きな構想をもって進めば、北海道の魅力は、一段と高まっていくだろう」と語った。

講座では、大和証券（東京都）の谷栄一郎金融市場調査部部長チーフ・ストラテジストも「当面の経済・金利情勢の見方」と題して講演。谷氏は「日本がインフレになる可能性は低い。円安局面は今後、90円台の円高局面になるだろう。米国の物価が下落することは考えづらく、かなりの円高になるかもしれない」との見通しを示しました。

**札幌市中央区に新しい酒蔵が完成
「千歳鶴」の日本清酒が建設**

札幌の地酒「千歳鶴」を製造して



3月から生産を開始する日本清酒の酒蔵

いる日本清酒（札幌市）は、3月に新しい酒蔵で生産を開始します。中央区南3条東6丁目で建設している酒蔵は、すでに真新しい外観を見せ、木目調の外壁がアクセントとなっており、スマートな印象を与えています。

64年ぶりに新しく建設される酒蔵は、1959年に稼働した「丹頂蔵」の隣接地に建設しています。現在の施設は稼働から60年以上経ち、老朽化が進んでいることや生産効率

が低いこともあって新酒蔵を建設することとなりました。製品倉庫の一部に使っていた貯蔵タンクなどを解体し、その跡地を利用します。

建物はRC造、2階建て、延べ床約1,200㎡。設計・監理はアトリエオンド一級建築士事務所、施工は福田組（新潟市）北海道支店が担当しています。新酒蔵では、3月から日本酒の生産を始める予定で、通年で日本酒を製造できる設備を備え、最大で年間27万リットルの生産が可能となります。

アトリエオンド一級建築士事務所は、上川大雪酒造（上川町）の「緑丘蔵」、「碧雲蔵」（帯広市）、「五稜乃蔵」（函館市）の設計、監理も行っています。いずれの酒蔵も小規模ながら見学コースも整備され、酒造りを間近に見学できるようになっています。今回の日本清酒の新酒蔵も、同社の新たな魅力発信に役立つことが期待されています。

驚きと発見、そして北海道へ

今、「ほっかいどう学」が熱い!!

認定 NPO 法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長 新保 元康



<美しくカッコいい冬の主役!>

北海道の冬は、世界中の人があこがれる美しさにあふれています。「冬」とは、世の中のあらゆるものが白くラッピングされる「KISETSU」と言ってもいいでしょう。どこもかしこもまぶしく美しい。スキー場はもちろん、通勤の道端でも息をのむ光景に出会うことがあります。

しかし、まだ、多くの人が気づいていない美しさがあります。北海道の冬、最も美しくカッコいいのは「人」です。

北海道の気候区分は、亜寒帯（冷帯）となります。本州は温帯。はっきりした違いがあります。本州にも雪は降りますが…同じ雪、同じ冬ではありません。一番の違いは気温です。本州の道路では雪を水で融かすこともできます。しかし、それを北海道で行ったらどうなるか…、極めて危険なスケートリンクになってしまいます。

厳しい冬の期間、毎日の生活を維持するために奮闘されているのが除雪の仕事をするみなさん。

夜中に「ゴゴゴゴ…」という音を聞くと、うれしくなって思わずスマホをもって飛び出してしまうことがあります。除雪作業はほれほれするほどカッコいい!

道路というのは、よく見ると非常に凸凹があり、周辺には標識をはじめとした付属物がたくさんあります。そこを巧みに避け、最近は間口にもできるだけ雪を置かないように実に巧みな技を駆使しています。写真③の除雪跡は、まさに芸術的と言ってもいいですね。

札幌市では、一晩に 5,400km の除雪を行うそうです。この距離は札幌と石垣島を往復する距離。運転室内の強烈な音と振動に耐え、実に微妙な操作を続けながら、たった6時間でこの距離を除雪するのです!

世界を転戦するプロのジャンパーに各国の除雪状況を伺ったことがあります。どの国に行っても毎朝ランニングをするそうですが、朝ホテルを出たときに除雪が終わっているのは日本だけだそうです。通勤時間帯には、何事もなかったかのように姿を消す除雪作業のみなさん。世界一カッコいい、世界一美しい仕事をなさっているみなさんは冬の主役です!



写真①: マウントレースイスキー場



写真②: 手稲区での夜の除雪風景



写真③: 手稲区での巧みな除雪跡



Profile

新保 元康（しんぼ・もとやす）1958年小樽市生まれ。北海道教育大学卒業後、札幌市内の小学校に37年間勤務。4校で校長を務め定年退職後、令和元年に発足したほっかいどう学推進フォーラム理事長に就任、現在に至る。

編集後記

▽「企業のためのよろず情報誌 K I S E T S U」3月号をお届けします。2022年度も今月で終わり、23年度を迎えます。皆様にとっても飛躍の年度になることを心から祈念しています。

▽この冬も北海道は雪との闘いでした。札幌市は昨シーズンほどではありませんでしたが、空知や後志地方などは大雪に見舞われ、高速道路の通行止めやJRの運休が相次ぎました。北海道の宿命とは言え、厳しくつらい期間でした。でも春はもうすぐそこに来ています。コートいらずで出かけることができる日が待ち遠しいですね。